



平成 27 年 7 月 28 日

行政視察報告書

第 2 委員会 小長谷朗夫

1 視察期日 平成 27 年 7 月 15 日(水)～7 月 17 日(金)

2 視察先と目的(テーマ)

○子育て支援日本一の取り組みについて

福井県勝山市役所

○北陸新幹線開業に伴う文化財を活かした取り組みについて

石川県金沢市役所

○中学校の統合について

富山県射水市教育委員会・新湊中学校

○富山型デイサービスについて

富山県富山市役所・施設「ふるさとのあかり」

3 各視察先の考察

○**子育て支援日本一の取り組みについて(勝山市)**

全国的な傾向である「人口減少」「少子化(晩婚化)」「高齢化」に加えて長引く不況による経済的不安・出産、子育て不安等が押し寄せる現実の中で、勝山市は「効果的な育児助成等の実施により出生率の高まりに加えて、育児不安の解消に寄与する」を目的に子育て支援日本一をめざした。主な支援策として以下の3つを挙げている。

①世帯の第 3 子以降 3 歳未満児の保育料を軽減する。

・世帯の第 3 子以降 3 歳以上の児童(1 人入所)の保育料半額

②第 3 子以降の子を「かつやまっ子」として認定し、すくすく育成奨励金を交付する。

・第 3 子 30 万円 第 4 子 40 万円 第 5 子 50 万円(18 歳未満)

③子育て支援センターを設置し、未就園児等地域の子育て支援の充実を図る。

・「放課後児童クラブ(学童保育)」「放課後子ども教室」「児童センター」の 3 つの機能を持ったセンターでそれぞれがもつ固有の役割のほか育児不安等へのアドバイスなど幅広い事業が展開されている。

上記以外にインフルエンザ予防接種費用の助成(1,000 円)、勝山総合病院で 1 回目から受診し、県内の病院で出産 1 回につき 10 万円の「ここにこ妊婦奨励金」その他「ことばの育ちの教室」「5 歳児健康診査」などまさに子育て支援日本一をめざして事業が展開されている。

○**北陸新幹線開業に伴う文化財を活かした取り組みについて**

本年 3 月 14 日に開業した北陸新幹線により金沢はもちろんのこと新高岡、富山など各駅はその玄関口にふさわしい衣替えを呈していた。特に金沢駅は北陸の最大都市とし

での自負感さえ思わせるほどの威厳があった。この機に金沢市は窓口として市役所内に「プロモーション推進課」を設置した。金沢市独自の事業展開には必ず行き詰りを感じる時がくるという明察から広域的な事業展開を試みている。特に高山の文化財・世界遺産の白川郷・五箇山等とのコラボによる広域的な観光行政を推進している。

○富山県射水市教育委員会と新湊中学校

平成 25 年 4 月 1 日、新湊西武中学校、奈古中学校が統合され新湊中学校が発足された。当初新湊西武中学校を仮校舎として利用したが、本年 4 月に約 30 億をかけ奈古中学校跡地に新校舎が完成した。1 学年 3 学級の 9 学級・支援学級 2 学級の 11 学級、全校生徒数 282 名の新中学校である。

現在に至るまでいくつかのハードルを越えての統合であるが、「射水市新湊地区学校等あり方検討委員会」の検討内容によって一つずつ解決されてきた。

なかでも一番苦労した案件は、中学校を統廃合すると次は小学校がなされるのではないか、一つの施設の廃止が他の廃止に繋がることも考えられ、まちから活気がなくなるのではないかなど住民感情に対する丁寧かつ慎重な説明に苦慮した。両中学校の保護者、各小学校の保護者、関係自治会の住民との意見交換会を重ね、説明責任と合意系形成に努めた。学校教育課長の「根回し」が大切であるとの説明が印象的だった。伊豆市においても大いに参考になった訪問でした。

○富山市役所と施設「ふるさとのあかり」

平成 5 年に現役を退職した 3 人の看護師さんが開所した「デイサービスこのゆびと一まれ」から始まった「富山型デイサービス」も本年で 22 年目を迎える。

その特徴は、赤ちゃんからお年寄りまで、障害のあるなしに拘わらず受け入れることである。開所当初国の法律でのしほりから行政からの支援はなかった。平成 9 年度からは高齢者のデイサービスへの補助金の交付が実現した。平成 12 年度になると介護保険制度がスタートし、通所介護事業所の指定を受けたことによって運営補助金は廃止されるが、経営は安定した。平成 15 年 11 月には「富山型デイサービス推進特区」が認定され指定通所介護事業所等での知的障害者、障害児のデイサービスの利用が可能となった。富山型基準該当障害福祉サービス事業所は県内に 53 か所を数えるようになった。メリットとデメリットが混在する中で、百聞は一見にしかずということで NPO 法人「ふるさとのあかり」を訪ねた。

この施設は 2002 年 8 月に設立され 11 月に開所された。田畑に囲まれた施設で現在、子育て支援・地域交流室・居宅支援事業所・ショートステイ・富山型デイサービスの機能を持つ施設である。他に「ふるさとのあかり八町」女性限定の「障害者グループホーム」を経営している。熱気あふれる山田代表から開口一発、富山型のデメリットのひとつに「高齢者と身体障害者、知的障害者、心身障害児が同時にサービスを受けることとなるので、障害特性に応じた処遇が確保されるか不安がある。」このデメリットに類する発言があった。